

会員の声

自ら考えよう

－世論に誘導される脱原発の世界－

捏造される面白い話

発見された時代や場所とは全くそぐわないと思えるような古文書や遺物をオーパーツ（Out of place arti-facts）といいます。その場違いな違和感を非常に強調して捉え、超古代文明があったからだとか、古代に宇宙から飛行士が来て残したものだとか推定（おおくは断定）して考古学の通説に異議を唱える人がいます。お話としては面白いことこの上ない内容になっていきます。（個人的には大好きです。可能性が低いものほど不思議なことが起きそうですから。）

一般的に、ある仮説やイメージが正しいと認められるには、あらゆる角度からの検証が必須で、そして更に総合的な判断を経る必要があります。つまり事実関係をまんべんなく見渡すことが大事です。一部だけをことさら重視することは許されません。

オーパーツで言えば、わざわざ超古代文明を持ち出さなくても既知のことで説明ができるわけです。例えば、ペリ・レイスの古地図には、（飛行機のまだない時代に）はるか高空から見た氷の解けたむきだしの南極が（まだ南極自体が発見されていないのに）描いてあるように見える、というのも「捏造される歴史」ロナルド・H・フリッツェによって否定されています。



突き詰める事のない日本人

しかし、こういう怪しげなことを一つ一つ疑って自ら調べるのは面倒なことです。人生がたとえ千年以上あったとしても、眉唾ものまでも実直に調べるほど酔狂ではないでしょう。もっとやりたいことですら「棒ほど願って針ほどしか叶わない」のが常ですから。カール・セーガンも、ひとつの「常識といわれること」が実は間違っていると検証したことがあります。わずかその一件を調べるために膨大な時間と努力を要した（もう二度とやりたくない、とまでは言っていないが）、と述懐しています。そういう苦労は普通徒労になるだろうと予感して、無意識のうちに避けてしまうものです。そうすると、常識といわれる事は「違和感はないから、まあそんなだろう」とか、眉唾ものは「どうでもいいから放っておこう」となり、現実にはあたかもそれを認めたのに近い感じになってしまいます。

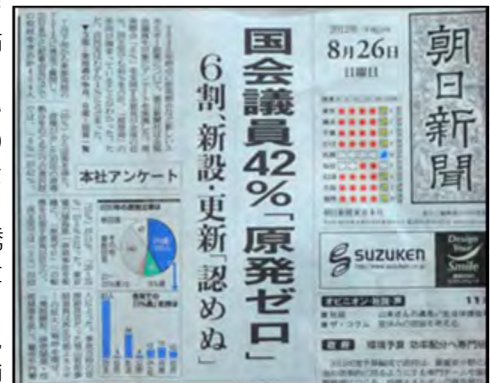
似たことが日常の会話でもよくあります。

あるイメージについていちいちその妥当性を証明してから使うようでは会話のテンポにおよそなじまないもので、そのイメージが第一印象で正しそうなら、「とりあえず正しい」として話を進めてしまうわけです。そのイメージは面白いもの、刺激的なものほど好まれる傾向もあります。おおくの会話は、いつも深く考えたあとで荘厳に発言するよりも、その時の感覚・印象で気軽に話すことで進んでいく傾向があります。それは会話の楽しさであり、反面、怖さでもあります。

TVの街頭インタビューを見ても、日頃からそのことを深く考えているおかげで的確にコメントしている、という人は少なく、その人の単なる印象（というかその時のその人の気分の反映）にしかすぎないことを発している人が多いものです。（その意味で、街頭インタビューは公平な形をとっているようでいて、TV局の思いの方向に誘導することができます）危険なことはこのような特性をつかって世論調査をすることです。

少し前の、首相候補の菅氏の世論調査や内閣支持率の世論調査に見られるように、わずか数カ月でその値は大きく変わり、いかに世論調査があてにならないかがわかります。言ってみればその時点の人気調査や印象度調査のようなものであることが分かるのです。

最近マスコミは、脱原発の世論調査を行い世論を操ろうとしています。脱原発についての意見を世論調査で聞かれたら、普段からマスコミに印象をすりこまれていた人たちは、その印象で調査に応じ、脱原発支持が70%、80%となるのでしょうか。そのような調査は現時点での人気とか印象を調査しているものであり、それで日本の将来を決められてはかたまりません。



暴力的討論会

筋道を立てて議論をたたかわせるような場面では、あるイメージをほとんど検証や論拠なく主張して（というか

検証する時間も与えられず、なのかもしれませんが）、あとは声の大き
さで頑張る、といったパターンをよく見受けます。声を荒げるとか暴力的
にみえる挙動をとる、というのは、協調性の高い従って温和で静かな
日本人には、ことのほか有効です。黙り込ませることができるからです。
いってみれば日本人のひとの良さにつけこんで攻め込むことが、少
人数であっても非常に効果的に実行できます。（この、日本人を黙らせ
るのに有効な手段は、意図的につかわれている可能性があります。）



最近政府はエネルギー政策について意見聴取会を行っています。そこ
に電力会社の社員が選ばれて参加し、原子力やエネルギーについて意に
沿わない主張をすると怒号がおり、ついに政府は意見聴取会での暴力的
な人たちの意見を受け入れ、電力会社を排除することに決めてしまいました。

「言論の自由」も、声を荒げるとか暴力的にみえる挙動に屈してしまいました。そのような意見聴取会は全く
意味のないものでしょう。

エネルギー政策を決めるエネルギー基本問題検討会でも、原発推進の委員が自由に意見を言えないような雰囲気
であり、傍聴人や委員の一部から暴力的な発言があると聞きます。

教育にも問題が・・・

このことには、もう一つの根があると思います。

日本の義務教育や高校教育では、「根拠をまず示して、それから論理的に考えを組み立てて進めていく」とい
うことの重要性は紹介されますが、その「技術」はあまり教えていないようにみえます。そのため、「根拠を
示さず」、「論理的に展開もしない」で結論だけをぱーんと言いつ放たれても変だとは思えない、という人が意
外に多い。結論だけ行って信用しろ、というのは、ほとんど信心みたいなものですが、それがわからない。

「根拠」も「論理展開」も無いということは、事実関係の客観的確認を無視していることです。

たしかに授業の内容すべてにわたってこの方法を採用して説明するのは時間がかかりすぎてしまいます。しか
し、その、時間がかかることをいわば逆手にとって、こういう「技術」さえも教えない、というのはある種の
悪意のある意図すら感じさせます。

8月の全国学力調査によれば、中学の理科離れが進んでいると報道されています。理科の観察・実験結果を考
察する問題の正答率が低いと云うことだそうです。

物事を判断するのは直感ではなく、なぜそうなるのか、なぜそうするのか観察や実験を通して見つける楽しさ
を教えないからでしょう。

組み合わせによる議論の誘導

これらの4つを組み合わせ、**「一見反論の余地の無い常識やイメージ」**を利用して**「根拠と論理展開の無
視」**もしくは**「あらゆる角度からの検証や総合判断の無視」**によって**事実関係の確認をほとんどしないで意見
を主張し、「日本人のよさを悪用」して反論をしにくいようにすると、国民の考えを一定の方向に誘導するこ
とが可能になります。**

惑わされない為の初めの一步

これを見破り、そうはさせないようにするには、まず4つの中の**「根拠と論理展開」**を国民の多くが鍛えるこ
とが大事だと思います。

勿論、それを皆が自発的に楽しんで鍛えられるかが課題ではあります。嫌々やるのでは早晩放棄してしまうで
しょうからまるで意味がありません。例えば、「根拠と論理的展開」があからさまな数学ですら、残念ながら
学生が自発的に楽しんで取り組めるような工夫はまだできていません。（そうはいても、この辺を突破口に
できるのではないかと感じます。）

無理なく自発的に**「根拠と論理展開」**を鍛えることができれば、「情念や感情を思考のプロセスから外して」
考えることができます。そしてその結果**「現実を直視できる」**チャンスが生まれます。やはり今の日本人に足
りないのは**「現実直視力」**です。感情を交えずに淡々と事実を見据える覚悟といってもいいでしょう。

脱原発ができるのかを考えると、原発の危険性だけを考えないで、日本として何をしなければならぬか、
観察や実験はできないので、「根拠と論理展開」の視点にたつて国民一人一人が考えなければなりません。実
際には国民一人一人は無理でしょうが、そういう意識があれば、感情的な人気TVキャスターや評論家に惑わ
れずに、しっかりとした根拠を示しながら解説するマスコミ、知識人の意見を聞くことになるでしょう。

(T.M記)